

ID No.309	
研究課題名	新世界ザルの生物学的特性の解明
研究代表者	木曾 康郎 (山口大学・教授)
研究組織	受入教員 甲斐 知恵子 (東京大学医科学研究所) 研究分担者 石田 貴文 (東京大学) 吉澤 緑 (宇都宮大学) Sri Kantha Sachithanantham (岐阜薬科大学) 鈴木 樹理 (京都大学) 日下部 健 (山口大学) 加納 聖 (山口大学) 檜山 雅人 (山口大学) 倉石 武 (東京大学医科学研究所) 服部 正策 (東京大学医科学研究所)
研究報告	
これまでに奄美病害動物研究施設において、リスザル雌4頭、ヨザル雄2頭、雌非妊娠4頭、妊娠(後期)1頭の計11頭からそれぞれ必要な材料を採取した。 (1) 各個体の生殖器(卵巣、卵管、子宮、膣、胎盤)を比較組織学的に検討した。ヒトの抗体と交叉することを確認した。レクチン反応性、およびMuc-1反応性で興味ある知見を得た。特に卵管上皮において、リスザルとヨザルの形態に顕著な差異が認められ、この生理学的意義を検討している。 (2) 各個体の副腎を組織学および組織計測学的に検討した。驚いたことに、ヨザルでは副腎皮質束状帯の占める割合が高く、さらには異所性の束状帯が認められることが分かった。一方、副腎皮質ホルモンの血中濃度に顕著な差異が認められ、この生理学的意義を検討している。 (3) 各個体の腺性下垂体を免疫組織学的に検討した。ヒトの抗体と交叉することが分かったので、現在、各ホルモン分泌細胞の分布、出現率を検討している。 (4) 各個体の消化器、今回は特に噴門・胃底・幽門部における各型の細胞の存在比率を比較検討した。また、胃腺部のレクチン結合パターンを明らかにした。現在、腸管全域にわたる特徴を検討している。 (5) ヨザルのカリオタイプを調べたところ$2n=53$であることが明らかになった。これは<i>Aotus lemurinus griseimembra</i>に対応すると判断されるが、現在、FISH法・ペインティング法を用い詳細な解析を行っている。また、<i>in vitro</i>での解析を可能とするため皮膚・腎から初代培養を行い、これまでに5系統の細胞を得ている。 (6) ヨザル卵巣の卵胞から採取された卵丘・卵子複合体について体外培養条件を検討し、卵子の形態と大きさを明らかにした。また精巣上体尾から採取された精子の形態と大きさについて明らかにし、さらに精子の凍結保存法について検討している。	